

2020年度の輸送の安全に関する取り組み状況

(1)乗務員教育

プロドライバーとしての自覚とスキルアップの為、ドライブレコーダー画像を活用したり、JAFの「実写版」危険予知・事故回避トレーニング映像を活用して乗務員教育を行っています。また、エコドライブ講習なども行っています。



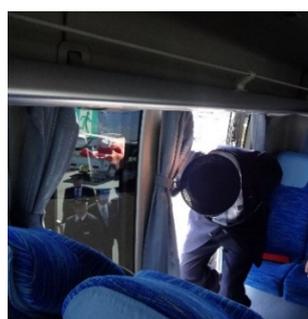
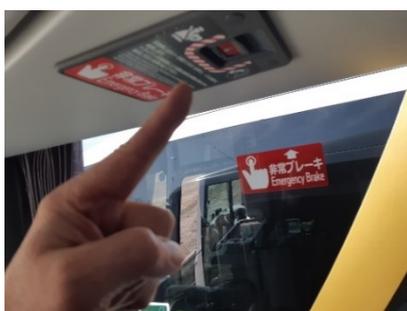
(2)バスジャック・テロ対策

安全を確保する意識の向上を目的として、年に1~2度、営業所、点呼場などに不審物の発見と通報についてのテロ警戒中ポスターを掲示しています。



(3)訓練の実施 (適切な運転方法と装備性能の把握)

新たに購入した貸切バスに「ドライバー異常時対応システム」を導入しました。システムの機能を把握するために、整備管理者が実車を使用し指導しました。また、事故対応訓練として非常口からのバス避難訓練を行いました。



(4) 研修の実施

令和2年6月15日（月）粒浦車庫にて

バス製造メーカーより案内がありました、「新型コロナウイルス対策の新生活様式の一つとして、観光バスの運行において、バス室内の「密閉」を防止することから、バス車内の換気を推し進める、「外気導入固定運転」を推奨致します。通常大型観光バスの室内換気に関しては、車両後方の強制排気（強制的換気）と自然換気を設定しており、「自動運転モード」では、室内循環と外気導入を自動切換えて快適な室内環境を提供しております。「外気導入固定運転」においては、約5分で室内の空気を入れ替えることができます。」

に基づき、弊社所有のバスにて「コロナ対策取組み安心安全確認」の為、実験及び乗務員研修を行いました。

結果、メーカー公表どおり約5分後に車内が換気できたことを参加乗務員が確認し、外気導入モードで運行し換気することにしました。本社事務所、天城営業所、車内用映像ビデオ作製、チラシ、ホームページにて周知しました。



※外気導入モードで換気、約5分少々後に車内の空気は入れ替わりました